環境森林部所管工事施工管理の統一事項

令和３年４月

（令和７年１０月改正）

宮崎県環境森林部

目　　次

環境森林部所管工事の留意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第１編　総則編

１．工事請負契約から工事完成までの流れ
２．監理技術者等
３．施工体制
４．ＣＯＲＩＮＳへの登録
５．建設業退職金共済制度

県土整備部
土木工事施工管理の
統一事項　適用

６．工事の標示（工事看板）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-6-1

第２編　施工管理

１．一般事項
２．施工計画書
３．設計図書の照査・工事測量の成果（着工前測量）
４．工事打合簿
５．協議資料
６．工程管理
７．工事履行報告

県土整備部
土木工事施工管理の
統一事項　適用

８．品質・出来形・写真管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-8-1
９．段階確認等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-9-1

１０．材料関係
１１．安全管理
１２．再生資源

県土整備部
土木工事施工管理の
統一事項　適用

１３．様式集　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-13-1

環境森林部所管工事施工管理の統一事項
環境森林部所管工事の留意事項

１．適　用

環境森林部所管工事施工管理の統一事項は、宮崎県環境森林部が発注する工事（以下、「工事」という。）に係る事項について定めたものである。なお、県土整備部土木工事施工管理の統一事項を適用するものについては以下に示すものとし、これに記載なき事項について、農業土木工事施工管理の統一事項として各編に定めるものとする。なお、環境森林部所管工事施工管理の統一事項の各項の番号は土木工事施工管理の統一事項の番号に合わせるものとする。

＜県土整備部土木工事施工管理の統一事項を適用するもの＞

－第１編 総則編－

１．　工事請負契約から工事完成までの流れ
２．　監理技術者等
３．　施工体制
４．　CORINS への登録
５．　建設業退職金共済制度

－第２編 施工管理編－

１．　一般事項
２．　施工計画書
３．　設計図書の照査・工事測量の成果（着工前測量）
４．　工事打合簿
５．　協議資料
６．　工程管理
７．　工事履行報告
８．　品質・出来形・写真管理
※8.3 写真管理については環境森林部所管工事の施工管理の統一事項を適用

ー第１編　総則編ー

６．工事の標示（工事看板）

工事を行う場合は、必要な工事標識を設置するほか、原則として次に示す事項を標示する標示板を工事区間の起終点に設置するものとする。

なお、土木工事共通仕様書第１編１－１－２６第３項には、以下のように規定されている。

「受注者は、施工に先立ち工事現場またはその周辺の一般通行人等が見易い場所に、工事名、工期、発注者名及び受注者名を記載した標示板を設置し、工事完成後は速やかに標示板を撤去しなければならない。ただし、標示板の設置が困難な場合は、監督員の承諾を得て省略することができるものとする。」

6.1　表示内容

工事標示板の表示内容については、次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　工事の種別

治山事業においては「治山工事」、林道事業においては「林道工事」、自然公園事業においては「公園工事」と記載するものとする。

(2)　工事の名称、場所、期間

契約書に記載のとおり記載するものとする。（ただし、工事の名称については事業年度を除く。）なお、工事の期間については、工場製作がある場合など、現場での工事期間が契約工期と大きく異なる場合は、実際に現場で工事を行う期間を記入するものとする。

(3)　工事の施工者

商号又は名称、電話番号（市外局番を含む。以下同じ。）を記載するものとする。

(4)　工事の発注者

事務所名、担当名及び電話番号を記載するものとする。

(5)　問合せ先

工事に関する情報の問合せ先を標示するものとする。

6.2　図柄

工事標示板に記載する絵等は次の内容とする。ただし、デザイン等具体的な掲載にあたっては、工事のイメージアップにつながり、いやしくも工事標示板としての目的を失することのないよう留意するものとする。

(1)　地域の名所、特産品、名物、風景等

(2)　県の主要施策に関する内容

(3)　県が主催する行事等に関する内容

6.3　配置

標示板や文字等の大きさについては、絵等を掲載する場合は図１－２によるものとし、それ以外は図１－１によるものとする。ただし、これにより難い場合には監督員との**協議**により変更できるものとする。

6.4　その他

工事標示板を除く標識類の材料、寸法、様式等は任意とするが、設置効果を確保できるように作成しなければならない。

図１－１

○　○　工　事　中　（赤色）

○○○○○○○○○○○○○事業
地区名又は路線名

場所：○○市町村大字○○字○○

期間：平成○○年○○月○○日から
平成○○年○○月○○日まで

施工者：株式会社○○建設
：TEL○○○○－○○－○○○○

発注者
宮崎県○○農林振興局・西臼杵支庁
○○担当　TEL　0000-00-0000
※工事に関するお問合せは発注者まで

140 ㎝

図１－２（絵、写真入）

○　○　工　事　中　（赤色）

○○○○○○○○○○○○○事業
地区名又は路線名
場所：○○市町村大字○○字○○
期間：平成○○年○○月○○日から
平成○○年○○月○○日まで

図柄スペース

施工者：株式会社○○建設
：TEL○○○○－○○－○○○○

発注者
宮崎県○○農林振興局・西臼杵支庁
○○担当　TEL　0000-00-0000
※工事に関するお問合せは発注者まで

114 ㎝

114 ㎝

※ただし、工事の名称については事業年度を除く。

－第２編　施工管理編－

８．品質・出来形・写真管理

8.1 品質管理、8.2 出来形管理については本統一事項に定める。8.3 写真管理については、土木工事施工管理の統一事項を適用する。また、8.4 環境森林部所管工事施工管理の留意点について本統一事項に定める。

8.1 品質管理

下記項目（8.1.1、8.1.3、8.1.4）については、土木工事施工管理の統一事項を適用するものとする。8.1.2 品質管理基準及び規格値については、本事項に定める。

8.1.1 目的　　県土整備部土木工事施工管理の統一事項　適用

8.1.2 品質管理基準及び規格値

品質管理基準及び規格値は、別途、「土木工事施工管理基準」及び「品質管理基準（県土整備部）」、「環境森林部施工管理基準及び品質管理基準（環境森林部）」を参照のこと。

8.1.3 品質管理上の留意点
8.1.4 作成例　　県土整備部 土木工事施工管理の統一事項　適用

8.1.5 環境森林部所管工事品質管理の留意点

「品質管理」に規定するコンクリートの圧縮強度試験に供するテストピースの採取は、コンクリート運搬がケーブルクレーン又はコンクリートポンプ車による特殊な圧送の現場にあって、打設当初及び季節の変化時に「荷卸し場」と「打設場所」でのスランプ及び空気量を比較し、その差が許容範囲内（スランプ 1.5cm、空気量 1.0%）にない場合を除いて、「打設場所」から「荷卸し場所」とすることができる。

なお、コンクリートポンプ車による特殊な圧送とは、高所圧送（80m 程度以上の鉛直圧送）、長距離圧送（240m 程度以上の水平圧送）、下向き圧送（圧送を停止した場合に配管内のコンクリートが自然流下して配管内に空隙を生じるもの）、暑中期及び寒中期の圧送をいう。（コンクリートポンプ工法施工指針による。）

8.2 出来形管理

下記項目（8.2.1、8.2.3、8.2.4）については、土木工事施工管理の統一事項を適用するものとする。8.2.2 出来形管理基準及び規格値については、本事項に定める。

8.2.1 目的　　県土整備部土木工事施工管理の統一事項　適用

8.2.2 出来形管理基準及び規格値

出来形管理基準及び規格値は、別途、「土木工事施工管理基準」及び「出来形管理基準及び規格値　（県土整備部）」、「環境森林部施工管理基準」及び「出来形管理基準（環境森林部）」を参照のこと。

8.2.3 出来形管理上の留意点
8.2.4 出来形管理図表作成例　　県土整備部 土木工事施工管理の統一事項　適用

8.3 写真管理　　県土整備部土木工事施工管理の統一事項　適用

8.4 環境森林部所管工事施工管理の留意点

8.4.1 治山ダム等の施工管理

(1)　作業土工（治山ダム類、擁壁類(プレキャスト擁壁含む)）

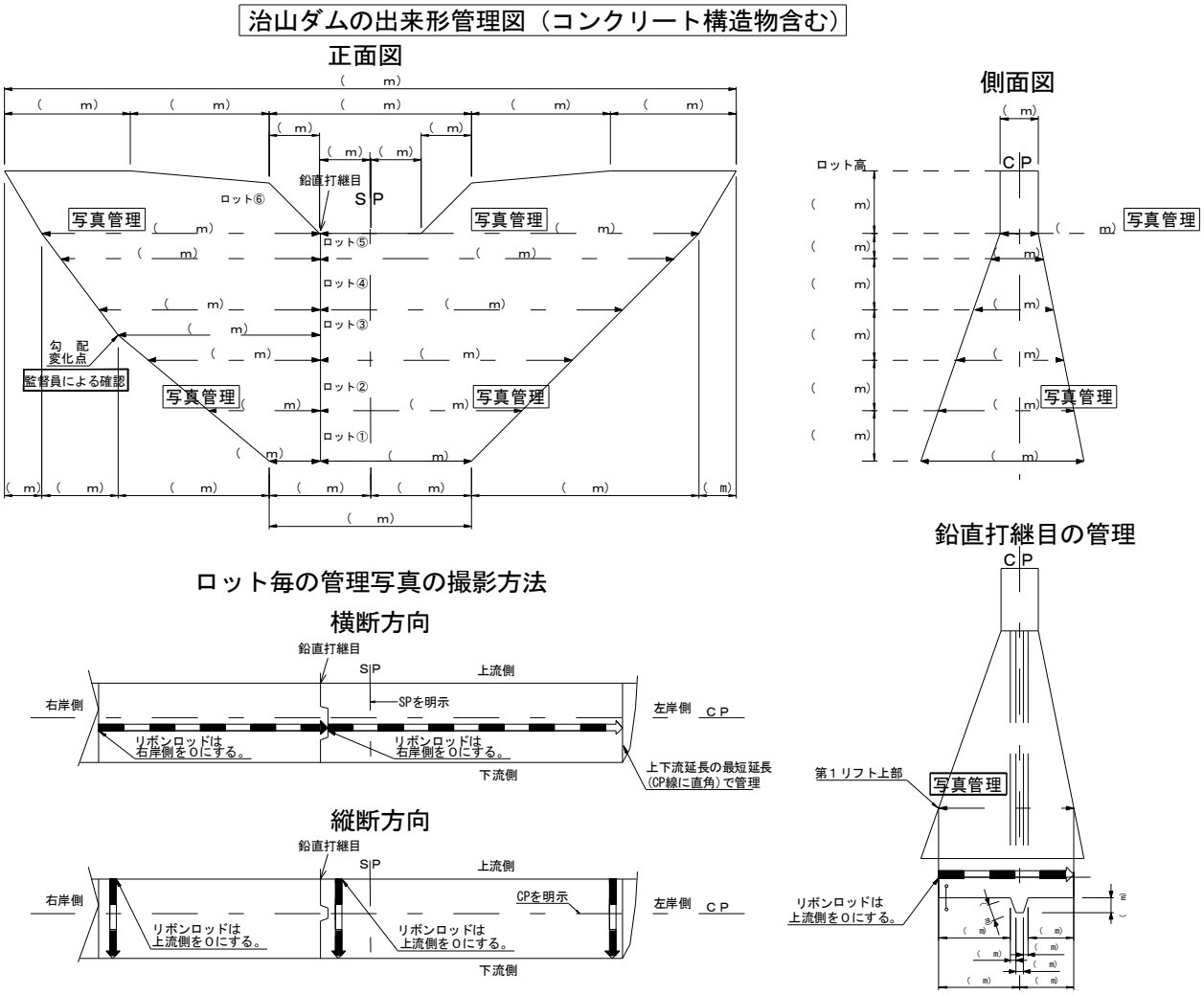
作業土工の出来形管理は省略し､両岸から撮影した床掘完了写真を状況写真として管理する。

(2)　水平打継目の補強処理（ほぞ、鉄筋による）

・鉄筋は、打継面全体が確認できるようにし、第１リフト及び放水路高リフトで単位面積当たりの設置本数、設置高も撮影する。

・鉄筋と型枠とのかぶり（10 ㎝以上）については、上部型枠設置後に写真撮影する。

・ほぞの場合は、配置位置（構造物幅 1/3）、高さ（200～300 ㎜）が概ね判別できるように撮影する。



8.4.2 補強土壁の写真管理

(1)　補強土壁工（壁材及び背面盛土補強材による構造物）の施工における補強材の出来形写真は、原則として延長方向に対して定点（管理点）を設け、定点において５段に１回の頻度で撮影するものとし、出来形写真を撮影したものを除く補強材については、その敷設状況が判読できる全景写真を撮影するものとする。

(2)　(1)の定点は、当該構造物の延長を 20m ごとに等分割したときの分岐点とし、分割点付近（5m 程度以内）に規定の測点がある場合は、当該測点とする。この場合において、定点数は最低２箇所とし、壁高の最高部を１箇所以上含むものとする。

(3)　定点における補強材及び盛土転圧の出来形写真は、最下段（１段目）、５段目、以降５段ごと

に撮影するものとする。

(4)　背面補強材を施工する場合の出来形寸法は、(3)の定点における最下段と同時に撮影するものとする。この場合において、背面補強材にはあらかじめ補強材を施工する５段目ごとの位置にマーキングを行い、その位置が(3)の出来形管理写真により判読できるように撮影するものとする。

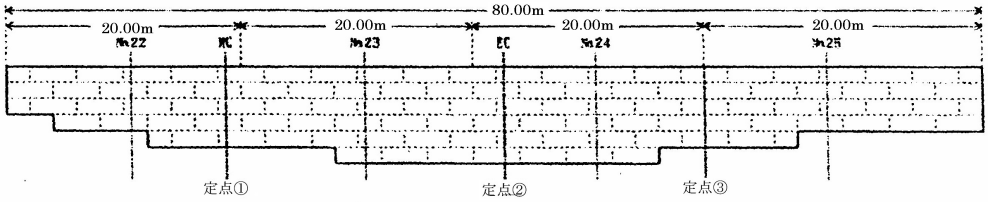
(5)　当該構造物の天端に巻付コンクリート等の擁壁類を施工し、又は端部に擁壁（側面板）等を設置する場合の当該擁壁類及び側壁等の出来形写真等は、その施工ごとに撮影するものとする。

(6)　基準高、壁高、側面の傾き及び延長は、施工管理基準による。

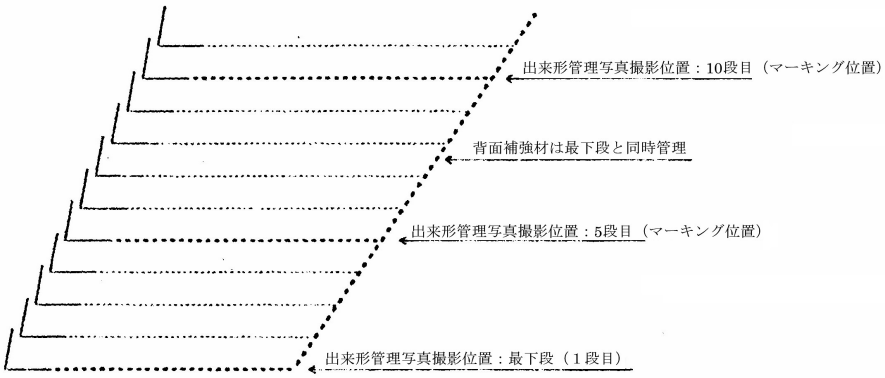
補強土壁工の写真管理

補強土壁工の写真管理箇所一般図

＜定点の決定＞



＜各定点における出来形管理写真撮影位置＞



8.4.3 暗渠工の写真管理

(1)　盛土工又は残土処理工において、暗渠排水材（パイプ、マット等）を平面上に数列にわたって配置して施工する場合の出来形写真は、当該平面における暗渠排水材の全てを配置した後の全景写真とする。

　ただし、全景写真により難い場合は、当該平面を複数の出来形写真に分割することができるものとし、このときの分割点は写真上で明示されなければならないものとする。

(2)　(1)の場合における出来形寸法は、配置した暗渠排水材のうち中央部付近に位置するもの、又は平均的な長さのものにリボンテープを配置して明示するものとする。この場合のテープ目盛は、出来形管理図表に記載した寸法が判読できるように撮影しなければならない。

(3)　暗渠排水材の区間距離の出来形管理写真は、原則として(1)と同時に撮影するものとする。この場合において、それぞれの区間が等間隔であることが全景写真より判読できるときは、中央部付

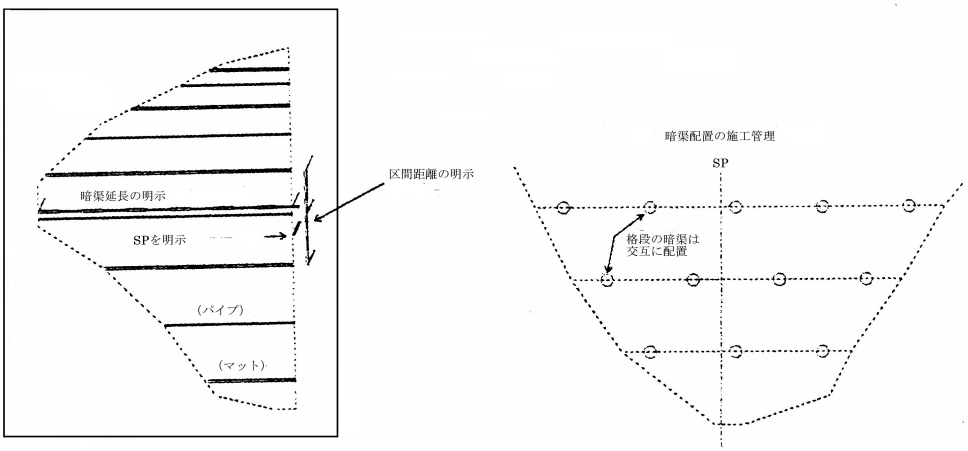
近に配置した暗渠排水材の両側の区間距離のみ明示して撮影することができる。

(4)　(3)で配置する暗渠に栗石暗渠等（栗石又はクラッシャーランで巻立てる構造のもの。）を含む場合における当該栗石等の断面の出来形管理写真は、平面１段につき１回の頻度で撮影するものとする。

(5)　盛土及び残土処理工における暗渠排水材は、その集水特性に従い、原則として設置する段ごとに交互になるように配置するものとし、このときの位置関係は出来形管理図表及び写真により明示するものとする。

暗渠工の写真管理

盛土工・残土処理工における暗渠工の写真管理一般図



8.4.4 アンカー工施工管理基準

施工手順		管理項目及び基準		管理方法			管理試料の記録	備考
項目	単位作業	項目	規格値	方法	時期	頻度		
削孔	機械検収	施工機械検収	種類・規格の点検	目視・試運転	搬入時	その都度		
	削孔機据付	削孔ビット据付精度	設計軸心から100mm以下	スケール測定	据付け時	全孔	アンカーの削孔記録及び写真（１枚10本かつ3枚以上）	※　水平・鉛直方向
		削孔ビット据付角度	設計軸心から±2.5°	直角定規・傾斜計				
	削孔	削孔長	設計長以上	ﾄﾞﾘﾙﾊﾟｲﾌﾟ本数残尺又は検尺棒残尺	削孔終了後、テンドン挿入前		アンカーの削孔記録及び写真（１枚10本かつ3枚以上）	
	定着位置	定着地盤	設計定着長	削孔データ、スライム等から判断（必要なときはコア採取）	削孔時		アンカーの削孔記録及びスライム管理（1本/10本かつ3本以上）	
	孔内洗浄	洗浄水の濃度及びスライム排出量	必要回数	洗浄水・スライム排出量の目視	削孔時		アンカーの削孔記録及び写真（３枚程度）	
テンドン組立・加工・保管	材料品質	変形・傷・さび・油脂	JIS他	ミルシート保管	納入時	１回	ミルシート保管	
	組立加工	本数	±0	設計図書確認検尺時確認	テンドン組立完了時	全孔	チェックシート及び写真（１枚/２本以上）	アンカー長から定着長までの項目については同一の写真でよい。
		アンカー長	設計長以上とするスケール測定	設計図書確認スケール測定	組立加工時			
		自由長	設計長－20mm以上とする					
		定着長・付着長	設計長＋0～20mm					
		テンドン配列	互いに交差しない	目視			写真（1枚以上）	
		自由長部加工状態	シース等の止水性仕上がり状態		検尺時			
		定着部加工状態	スペーサー個数仕上がり状態					
		材料保管状態	湿気・雨・泥・さび・油		毎日	１回/日		
		加工済テンドン保管状態	泥・さび・油・傷のつかない保管					

施工手順		管理項目及び基準		管理方法			管理試料の記録	備考
項目	単位作業	項目	規格値	方法	時期	頻度		
水密性	水密性試験	孔壁の水密性	定着長全体で0.1MPaで101/min･5m以下の漏水又はLu＜20	水密性試験ルジオン試験	定着深度削孔孔内洗浄後	必要に応じて	水密性試験記録	Lu＝ルジオン値水密性が確保できない場合は、事前注入を行う。
挿入	テンドン挿入	損傷汚れ	損傷・汚れなし	目視	挿入時	全孔	チェックシート及び写真（１枚/10本以上）	
		緊張余長	設計長±100mm	スケール	挿入後		チェックシート及び写真（１枚/２本以上）	
注入	材料品質	練混材料品質	JIS	ミルシートによる確認	材料搬入時	１回	ミルシートの保管	
	練り混ぜ	計量	w/c＝50～55%混和材：セメント量の0.2～6.0%	水量計	練り混ぜ時	１バッチごと	注入記録	
		コンシステンシーフロー値	Pﾛｰﾄ:10～18秒又はJAﾛｰﾄ:15～30秒	フロー試験	練り混ぜ完了時	２回／日	注入記録及び写真（３枚程度）	
	グラウト注入	グラウト注入量	実績	流量計又は練り混ぜバッチ数及び排気量	各孔注入時	全孔	注入記録及び空袋検収写真（立会い）	アンカー長から定着長までの項目については同一の写真でよい。
		グラウト材の強度（緊張時・設計過重作用時）	仮設：18N/mm2 永久：24N/mm2	圧縮強度試験	緊張開始前	１回／緊張ﾌﾞﾛｯｸ・段	試験成績書	緊張ﾌﾞﾛｯｸとは、緊張をまとめて実施する施行単位をいう。
	加圧・注入	加圧力	100～500KN/mm2	注入孔口圧力計	加圧注入時	全孔	注入記録及び写真（１枚/10本）	
緊張定着	緊張装置の検収	機種・規格点検表	機種・規格	目視・キャリブレーション	緊張作業前	必要に応じて	点検表・管理図	
	支圧台座取付	支圧板、台座強度の確認及び背面構造物の状態	防食、規格	目視	取付前	全孔	点検表	

施工手順		管理項目及び基準		管理方法			管理試料の記録	備考
項目	単位作業	項目	規格値	方法	時期	頻度		
緊張定着	緊張	緊張力	テンドン降伏荷重の0.9倍以下	圧力ゲージ	緊張時	全孔	緊張管理図及び写真（全孔）	
	定着力	定着時緊張力	導入力95%以上	圧力ゲージ、ジャッキマノメーターによるリフトオフ	定着時			
	伸び量	緊張管理曲線	許容限界線以内	荷重－変位曲線図作成	緊張時			
防錆	定着具背面処理	防食処理の状態	設計図書	目視	緊張前		チェックシート及び写真（１枚/10本）	
	定着具頭部処理				緊張後			

９．段階確認等

9.1 材料確認書については、土木工事施工管理の統一事項を適用するものとする。9.2 材料確認・立会事項については、下記項目（9.2.1～9.2.4、9.2.6）について土木工事施工管理の統一事項を適用するものとするが、9.2.5 段階確認一覧については本統一事項に定める。

9.1 材料確認書
9.2 段階確認・立会事項
9.2.1 目的
9.2.2 実施上の留意点
9.2.3 実施要領（段階確認）
9.2.4 実施要領（現地調査・立会）
9.2.6 段階確認書作成例

県土整備部
土木工事施工管理の統一事項　適用

9.2.5 段階確認一覧

段階確認一覧（環境森林部）

種　　別	細　　別	確認時期	確認項目	確認の程度
準備工	丁張確認	設置完了時	位置、方向、高さ	1回／1工事
指定仮設工		設置完了時	使用材料、高さ、幅、長さ、深さ等	1回／1工事
治山土工(掘削工) 道路土工(掘削工)		土(岩)質の変化したとき	土(岩)質、変化位置	1回／土(岩)質の変化毎
道路土工 (路床盛土工) 舗装工 (下層路盤)		ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ実施時	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ実施状況	1回／1工事
表層安定処理工	表層混合処理 路床安定処理	処理完了時	使用材料、基準高、幅、延長、施工厚さ	1回／1工事
	置換	掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ	1回／1工事
	サンドマット	処理完了時	使用材料、幅、延長、施工厚さ	1回／1工事
ﾊﾞｰﾁｬｰﾁｶﾙﾄﾞﾚｰﾝ工	ｻﾝﾄﾞﾄﾞﾚｰﾝ 袋詰式ｻｲﾄﾞﾄﾞﾚｰﾝ	施工時	使用材料、打込み長さ	1回／200本
	ﾍﾟｰﾊﾟｰﾄﾞﾚｰﾝ	施工完了時	施工位置、杭径	1回／200本
締固め改良工	ｻﾝﾄﾞｺﾝﾊﾟｸｼｮﾝﾊﾟｲﾙ	施工時	使用材料、打込み長さ	1回／200本
		施工完了時	基準高、施工位置、杭径、	1回／200本
固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ攪拌 生石灰ﾊﾟｲﾙ	施工時	使用材料、深度	1回／200本
		施工完了時	基準高、位置・間隔、杭径	1回／200本
	薬液注入	施工時	使用材料、深度、注入量	1回／20本
矢板工 (任意仮設を除く)	鋼矢板	打込み時	使用材料、 長さ、溶接部の適否	試験矢板＋ 1回／150枚
		打込み完了時	基準高、変位	
	鋼管矢板	打込み時	使用材料、 長さ、溶接部の適否	試験矢板＋ 1回／75本
		打込み完了時	基準高、変位	
既製杭工	既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時	使用材料、 長さ、溶接部の適否、杭の支持力	試験杭＋ 1回／10本
		打込み完了時 （打込杭）	基準高、偏心量	試験杭＋ 1回／10本
		掘削完了時 （中堀杭）	掘削長さ、杭の先端土質	
		施工完了時 （中堀杭）	基準高、偏心量	
		杭頭処理完了時	頭処理状況	1回／10本

種　　別	細　　別	確認時期	確認項目	確認の程度
現場打杭工	ﾘﾊﾞｰｽ杭 ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ杭 ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ杭 大口径杭	掘削完了時	支持地盤、掘削長さ	試験杭＋ 1回／10本
		鉄筋組立完了時	使用材料、 設計図書との対比　1	30%程度／1構造物
		施工完了時	基準高、偏心量、 杭径	試験杭＋ 1回／10本
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	1回／10本
深礎杭		土(岩)質の変化 した時	土(岩)質、変化位置	1回／土(岩)質の変化時
		掘削完了時	掘削長さ、 支持地盤	1回／3本
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図 書との対比	1回／1本
		施工完了時	基準高、偏心量、 杭径	1回／3本
		ｸﾞﾗｳﾄ注入時	使用材料、 使用量	1回／3本
ｵｰﾌﾟﾝｹｰｿﾝ 基礎工 ﾆｭｰﾏﾁｯｸ ｹｰｿﾝ基礎工		鉄沓据付完了時	使用材料、位置	1回／1構造物
		本体設置前 （ｵｰﾌﾟﾝｹｰｿﾝ）	支持層	
		掘削完了時 （ﾆｭｰﾏﾁｯｸｹｰｿﾝ）		
		土(岩)質の変化 した時	土(岩)質、 変化位置	1回／土質の変化毎
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図 書との対比	1回／1ﾛｯﾄ
鋼管矢板 基礎工		打込み時	使用材料、 長さ、 溶接部の適否、 支持力	試験杭＋ 1回／10本
		打込み完了時	基準高、偏心量	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	1回／10本
置換工 （重要構造物）		掘削完了時	使用材料、幅、延長、 置換厚さ、支持地盤	1回／1構造物
築堤・護岸工		法線設置完了時	法線設置状況	1回／1法線
治山ダム工 土留工 護岸工 防潮工 及びこれらに類する 工事		法線設置完了時	法線設置状況	1回／1法線
		土(岩)質の変化 した時	土(岩)質、 変化位置	1回／変化毎
		掘削完了時	支持地盤	1回／土質の変化毎
		型枠完了時(最下段)	設計図書との対比	1回／1構造物
		埋戻前	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	1回／1構造物
重要構造物 函渠工 （樋門・樋管を含む) 躯体工(橋台) RC躯体工 （橋脚） 橋脚ﾌｰﾁﾝｸﾞ工 RC擁壁 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		土(岩)質の変化した 時	土(岩)質、 変化位置	1回／土(岩)質の変化毎
		床堀掘削完了時	支持地盤(直接基礎)	1回／1構造物
		鉄筋鋼材組立完了 時	使用材料、設計図 書との対比	30%程度／1構造物
		埋戻し前	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	1回／1構造物

種　　別	細　　別	確認時期	確認項目	確認の程度
躯体工 RC 躯体工		沓座の位置決定時	沓座の位置	1回／1構造物
床版工		鉄筋組立完了時	使用材料、 設計図書との対比	30%程度／1構造物
鋼橋		仮組立完了時 （仮組立が省略となる場合を除く）	キャンバー、寸法等	1回／1構造物
ﾎﾟｽﾄﾃﾝｼｮﾝ T(I)桁製作工 ﾌﾟﾚﾋﾞｰﾑ桁製作工 ﾌﾟﾚｷｬｽﾄﾌﾞﾛｯｸ桁組立工 PC ﾎﾛｰｽﾗﾌﾞ製作工 PC 版桁製作工 PC 箱桁製作工 PC 片持箱桁製作工 PC 押出し箱桁製作工 床版・横組工		ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄ導入完了時 横締め作業完了時	設計図書との対比	5％程度／総ｹｰﾌﾞﾙ数
		ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄ導入完了時 縦締め作業完了時	設計図書との対比	10％程度／総ｹｰﾌﾞﾙ数
		PC 鋼線・鉄筋組立完了時 （工場製作を除く）	使用材料、設計図書との対比	30％程度／1構造物
ｱﾝｶｰ工		材料確認	アンカー長等	適宜
		削孔完了時	削孔長等	
		グラウト注入時	充填状況	
		緊張定着時	引抜き強度	
		受圧版　鉄筋組立て完了時	配筋状況	
		受圧版　型枠完了時	型枠組立状況、かぶり	
ﾄﾝﾈﾙ掘削		土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	1回／土質の変化毎
ﾄﾝﾈﾙ支保工		支保工完了時 （支保工変更毎）	吹付ｺﾝｸﾘｰﾄ厚、ﾛｯｸﾎﾞﾙﾄ打込み本数及び長さ	1回／支保工変更毎
ﾄﾝﾈﾙ覆工		ｺﾝｸﾘｰﾄ打設前	巻立空間	一般：１回／構造変化毎の 重点：３打設毎又は1回／構造の変化毎の頻度の多い方 ※重点：地盤等級がD，E 一般：重点以外
ﾄﾝﾈﾙｲﾝﾊﾞｰﾄ工		鉄筋組立完了時	設計図書との対比	1回／構造の変化毎
その他	監督員の指示した工事	適宜	適宜	適宜

注）・表中の「確認の程度」は、標準的な回数であり、実施にあたっては工事内容および施工状況等を勘案のうえ、適宜確認することとする。

・表中にない工種については、類似工種を参照し適宜確認すること。

・１ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は施工単位（目地）毎とする。

施工管理基準関係様式等

目　　　　　　　　次

１　出来形・品質管理総括表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13- 1
２　出来形管理図表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13- 2
３　出来形管理工程能力図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13- 3
４　出来形管理図表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13- 4
５　品質管理成果一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13- 5
６　品質管理工程能力図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13- 6
７　コンクリート中の塩分測定表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13- 7
８　レディーミクストコンクリート配合報告書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13- 8
９　Ｘ－Ｒ管理データシート(1)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13- 9
10　Ｘ－Ｒｓ－Ｒｍ管理データシート(2)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-10
11　舗装工事品質管理総括表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-11
12　下層路盤　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-12
13　粒度調整路盤　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-13
14　アスファルト安定処理路盤（加熱）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-14
15　セメント安定処理路盤　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-15
16　アスファルト舗装（基層・表層）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-16
17　セメントコンクリート舗装　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-17
18　コンクリート圧縮（曲げ）試験成果一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-18
19　コンクリート管理データシート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-19

出来形･品質管理総括表

工事名　　測定者

工種	種別	測定(試験)項目	測定(試験)基準	測定(試験)回数		規格値	測定値			摘要
				計画	実施		最大値	最小値	平均値	

出　来　形　管　理　図　表

工　事　名	
受　注　者	
測　定　者	
工　　種	
種　　別	
測　定　項　目	

略図

特性				特性				特性				特性				特性			
単位				単位				単位				単位				単位			
許容範囲				許容範囲				許容範囲				許容範囲				許容範囲			
測点	設計値	実測値	差	測点	設計値	実測値	差	測点	設計値	実測値	差	測点	設計値	実測値	差	測点	設計値	実測値	差
計	平均値			計	平均値			計	平均値			計	平均値			計	平均値		
	最大値				最大値				最大値				最大値				最大値		
	最小値				最小値				最小値				最小値				最小値		

出　来　形　管　理　工　程　能　力　図

工　事　名　　工　　種

受　注　者　　種　　別

測　定　者　　測　定　項　目

測点																	
設計値と測定値との差単位(mm)																	

出　来　形　管　理　図　表

工　事　名

受　注　者

測　定　者

工　　種

種　　別

工　事　名

略図

設計値と実測値との差0学位(mm)													

品質管理成果一覧表

工　事　名　　試験項目

工程・種別　　測　定　者

番号	月日	測定値			計Σ	平均値	移動範囲RS	摘要
		X1	X2	X3				

品 質 管 理 工 程 能 力 図

工　事　名
受　注　者
測　定　者

工　　種
試 験 項 目

試験月日																	
測定値()																	
設計値と測定値との差単位()																	

No.

コンクリート中の塩分測定表

工事名

受注者名

測定番号

測定者氏名	印		試験番号	試験値(%)又は測定器によつては空欄	塩分量(kg/m³)
立会者氏名	印				
測定年月日	. .	時刻 :	1		
工種	種別		2		
コンクリートの種類			3		
コンクリートの製造会社			計		
セメントの種類			平均値＝(測定値)		
測定器名					

コンクリート配合表(kg/m³)

セメント	水	細骨材	軽骨材	混和材(種類も記入)	水セメント比	細骨材率
					%	%

備考:測定結果に対する処置を講じた事項等を記入する0

注)塩分濃度を(%)で測定した場合は、次式で塩分量を求める。
塩分量(kg/■) ＝ 単位水量(kg/■) × 測定値 ÷ 100

レディーミクストコンクリート配合報告書

No.
年　月　日

製造工場名

殿

配合計画者名	
工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	標準品・特注品の区分	骨材の種類による区分	呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法による区分	セメントの種類による区分

指定事項(″)				
単位容積質量	(kg/m³)(t/m³)	空気量	%
コンクリートの温度	最高・最低　℃	混和材料の種類	
呼び強度を保証する材令日	日	アルカリ骨材反応抑制方法	

使用材料C2)

セメント	製造会社名		比重		R20(%)(13)		
細骨材	産地又は品名		粗粒率		比重	絶乾	
						表乾	
粗骨材	産地又は品名		実績率又は粗粒率		比重	絶乾	
						表乾	
混和剤	製品名		種類		細骨材の塩分		%
混和材	製品名		種類		水	種類	

配合表　kg/m³n³)(14)

セメント	水	細骨材	細骨材	粗骨材	粗骨材	混和剤	混和材
水ｾﾒﾝﾄ比	%	細骨材率	%		ｺﾝｸﾘｰﾄに含まれる塩化物質(塩素ｲｵﾝとして)		kg/m³以下
備考							

注　(″)呼び方欄以外に指定された場合に記入する。
(″)配合設計に用いた値を記入する。
(″)ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄを使用した場合にだけ記入する。
(″)骨材について普通骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で、軽量骨材の場合は絶対乾燥状態の質量で表す。

$\overline{X}$－R管理データシート（1）

名　　称		工　事　名	工事	期間	自　　年　　月　　日		
品質特性		出張所名			至　　年　　月　　日		
測定単位		日標準量		受　注　者			
規格限界 上限値		試料 大きさ		現場代理人			
規格限界 下限値		試料 間　隔		測　定　者			
設計基準強度		作業機関名		作　成　者			

採取月日	試験番号	測定値 X_1	X_2	X_3	X_4	X_5	計 ΣX	平均値 $\overline{X}$	範囲 R			
	1									$\overline{\overline{X}} \pm A_2\overline{R}=$		
	2									$=$		
	3									$D_4\overline{R}=$		
	4									平均	$\overline{\overline{X}}=$	$\overline{R}=$
	5									累計		
	小計									小計		
	6									$\overline{\overline{X}} \pm A_2\overline{R}=$		
	7									$=$		
	8									$D_4\overline{R}=$		
	9									平均	$\overline{\overline{X}}=$	$\overline{R}=$
	10									累計		
	小計									小計		
	11									$\overline{\overline{X}} \pm A_2\overline{R}=$		
	12									$=$		
	13									$D_4\overline{R}=$		
	14											
	15											
	16											
	17											
	18											
	19									平均	$\overline{\overline{X}}=$	$\overline{R}=$
	20									累計		
	小計									小計		

記事	n	d_2	A_2	D_4
	2			
	3			

(注)1　品質特性、測定単位は別紙様式により記入する。
　　2　規格限界、設計基準は設計図書、仕様書に定められた値を記入する。
　　3　管理限界線の引き直しは5－5－10－20－20方式による
（備考）　――――　管理限界の計算のための予備データの区間
　　……　上記の管理限界を適用する区間を示す
　　4　21組～40組までは、別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。

X－Rs－Rm管理データシート(2)

名　　称		工　事　名		期間	自　　年　　月　　日		
品質特性		出張所名			至　　年　　月　　日		
測定単位		日標準量	■/日	受　注　者			
規格限界 上限値		試料 大きさ	回　　試料	現場代理人			
規格限界 下限値		試料 間隔	日　　回	測　定　者			
設計基準強度		作業機械名		作　成　者			

採取月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 ΣX	代表値 X	移動範囲 Rs	測定値内の範囲Rm				
	1									$\bar{X}\pm E_2\bar{R}s$ =			
	2									$D_4\bar{R}_s$= $D_4\bar{R}_m$=			
	3										X	Rs	Rm
	4									平均	$\bar{X}$=	$\bar{R}_s$=	$\bar{R}_m$=
	5									累計			
	小計									小計			
	6									$\bar{X}\pm E_2\bar{R}s$ = =			
	7									$D_4\bar{R}_s$= $D_4\bar{R}_m$=			
	8									平均	$\bar{X}$=	$\bar{R}_s$=	$\bar{R}_m$=
	小計									累計			
	9									小計			
	10									$\bar{X}\pm E_2\bar{R}s$ =			
	11									$D_4\bar{R}_s$= $D_4\bar{R}_m$=			
	12												
	13									平均	$\bar{X}$=	$\bar{R}_s$=	$\bar{R}_m$=
	小計									累計			
	14									小計			
	15									$\bar{X}\pm E_2\bar{R}s$ = =			
	16												
	17									$D_4\bar{R}_s$= $D_4\bar{R}_m$=			
	18												
	19									平均	$\bar{X}$=	$\bar{R}_s$=	$\bar{R}_m$=
	20									累計			
	小計									小計			

記事	n	d_2	D_4	E_2
	2			
	3			

年度　　舗装工事品質管理総括表

路線名			
施工位置	市　　町 郡　　村		
工期	年　月　日～　　年　月　日		
工種			
延長	m	幅員	m
面積			㎡
施工者			
試験者			

CBR 設計CBR	構造							適用
	表層	基層	上層	下層	砂利厚	計	しや断層	
	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	配合試験欄には必要事項を記入のこと。　品質管理試験中の写真を貼付のこと。

配合試験の結果(表層、基層、すべり止、瀝青安定処理等)

工種	種別	AS量 (%)	安定度 (kg)	密度 (kg/㎥)	フロー値 (1/100cm)	空げき率 (%)	飽和度 (%)
表層							
基層							
すべり止							
瀝青安定処理							

修正CBR試験の結果

工種	材料	修正CBR	密度	○MC
下層				
〃				
〃				
上層				

下　　層　　路　　盤							
厚さ		測点	最大乾燥密度	現場密度	率 %	路盤材料	
						Ｐ１	修正ＣＢＲ
No.	cm	No.					

粒　度　調　整　路　盤

厚さ		測点	最大乾燥密度	現場密度	率 %	粒度		路盤材料	
						mm	%	P１	修正CBR
No.	cm	No.							

アスファルト安定処理路盤（加熱）														
合成粒度			温度管理			抽出試験				コアー採取			基準密度	基準密度の対するコアー密度の率
月日	mm	%	月日	混合温度	打設温度	月日	ＡＳ量	粒度 mm	粒度 %	測点	厚さ	密度		
										No.				%

セメント安定処理路盤													
厚さ		現場密度		配合試験	含水量		セメント量		合成粒度		コアー採取		路盤材料
					月日	%	月日	%	mm	%	測点	厚さ	Ｐ１
No.	cm	No.											

アスファルト舗装（基層・表層）														
合成粒度			温度管理			抽出試験				コアー採取			基準密度	基準密度に対するコアー密度の率
								粒度						
月日	mm	%	月　日	混合温度	打設温度	月日	ＡＳ量	mm	%	測点	厚さ	密度		
														%

セメントコンクリート舗装									
コアー採取		スランプ		圧縮強度		曲げ強度		セメント量	
厚さ		月日	cm	月日	N	月日	N	月日	%
No.	cm								

コンクリート（圧縮 曲げ）試験成果一覧表

工　事　名

受　注　者

測　定　者

種別	番号	製　作 年月日	荷下ろし 地点 スランプ	設計 基準 強度	1週強度					4週強度					養生方法 現場 〔　〕 標準	備考
					試　験 年月 日	X1	X2	X3	$\overline{X}$	試　験 年月 日	X1	X2	X3	$\overline{X}$		

注 本表は、コンクリート（圧縮 曲げ）強度試験成績表により転記する。

1週強度は、σ28換算値を上段( )に記載する。

備考欄には、強度の合否判定を記入　1回の試験結果は、購入者が指定した呼び強度の85%以上であること。

3回の試験結果の平均値は、購入者が指定した呼び強度以上であること。

コンクリート管理データシート

工 事 名	年度　　事業　地区　工区			期間	自	年 月 日
品 質 特 性		コンクリート			至	年 月 日
測 定 単 位	N/mm²	日標準量		受 注 者		
規格限界 上 限 値		試料 大きさ		現 場 代 理 人		
規格限界 下 限 値		試料 間隔		測 定 者		
設計基準強度		呼び強度		作 成 者		

月日	組の番号	測定値 a	測定値 b	測定値 c	計 Σ	1回の試験の平均値X	3回の試験の平均値X	試験方法 (1) X≧呼び強度×0.85 (2) X≧呼び強度　.